



反日ト存華

最近日本公使ト我當局ト會談シテ居ルカ其ノ内容ハ所謂反日問題ニ關中  
 サレタルカニ聞ク從來日本ハ屢々本問題ヲ宣傳ノ資ニ供シテ居ルカ吾人  
 ハ之ニ對シ真相ヲ述ヘテ反駁ヲ加ヘサルヲ得ナイ  
 率言スルカ今日ノ中國ニハ所謂反日運動ハナク唯々存華即チ中華存續ノ  
 決心アルノミ而シテコノ兩者ハ其ノ性質ヲ著シク異ニシ反日トハ日本及  
 日本人ヲ仇敵視シ日本國家ヲ危害セントシ少クモ日本國或ハ日本人ノ正  
 當ナル利益ヲ毀損セントスルモノテアリ其ノ行動ニ表ハレタルモノトシ  
 テハ對日戰爭ヲ高調シ或ハ少クモ種々ナル方法ニヨリ政治上經濟上日本  
 ヲ危害スルモノテアラネハナラヌカ凡ソコレ等ハ過去現在共ニ中國ノ爲  
 ヲササリシトコロテアル過去ニ於テ曾テ日貨排斥ノ行動カアツタカコレハ

日本ノ或ル政治行動ニ對スル抗議ノ表示テアツタ然シ九一八事變以來日  
 本ノ如斯對華侵略ニ對シテサヘモ排貨組織ハ廢止サレ日貨ハ我國ノ南北  
 各港ニテ自由ニ販賣サレ華商ノ之ヲ賣買スルヲ到處ニ見受クルハ公然周  
 知ノコトテアル、最近日本ハ復又中國ノ反日ヲ宣傳スルカ排貨ノ聲サヘ  
 聞カサル今日尙他ニ何カ其ノ事實カアルノタラウカ？言論ニツイテ謂フ  
 モ中國ノ警籍新聞雜誌ニハ從來日本及日本人ヲ仇敵視スヘク鼓吹シタル  
 コトナク最惡ノモノト雖日本ノ對華政策及行動ニ抗議シタルニ過キナイ  
 即チ其ノ侵略ニ反抗シタノテアツテ日本ニ反抗スルノテハナイ、マサカ  
 日本ノ解釋ニヨル反日トハ我國カ日本ノ我領土分割我主權束縛ヲ歡迎セ  
 スシテ反抗スルコトヲ謂フノテハアルマイ又實際上塘沽協定以來中國ノ  
 新聞紙ハ侵略ニ抗議スル文字サヘ使用シナイノミカ日本ノ僭國統治方日  
 4 一日徹底スルニ隨ヒ事實ノ記載サヘモ極メテ減少シ長城戰區ノ各種事實

モ中國ニハ正當ノ理アリナカラ之ヲ主張シナイカ新聞紙ハ嚴重ナル檢閲ヲ受ケテ落メテ之ニ論及シナイ通郵交渉ハ數ヶ月ニ亘リ行ハレタカ中國新聞ニハ片言隻句モ記載サレス協定カ實行サルルニ及ヒ始メテ掲載サレ而モ事實ノ報道ノミニテ何等ノ表示ヲ見ナカツタ察東ニ於ケル衝突ノ如キ新聞紙ハ唯黙々タリシノミ無論中國新聞カ我方東北ノ各紙ノ如ク日本ヲ頌揚シ王道ヲ謳歌セヌトハ雖日本ニシテ幾分タリトモ中國ヲ獨立國ナリト認ムルナチハ之ヲ以テ反日ナリトハ謂ヘナイテアラウ

也ハ又日本ノ賣ムルトコロノモノハ心理的問題ニシテ言行上ノ問題テナイト謂フカモ知レヌカソレハ實ニ困難テアル天帝ト雖人ノ思想ニハ干渉シ能ハヌノテアリ之ハ畢竟日本ノ大錯誤テアル日本ニハ所謂支那通カ多イ方結局中國人ノ心理ハ中國人ノミ之ヲ知ル吾人ハ中國人ノ心理ヲ日本ニ細知ラセセウ中國ハ近年ノ中日關係ニ於テ切實ナル經驗ト教訓トヲ得

タカソレニヨルト我人民カ當面ノ共同急務ハ如何ニシテ我國家ヲ維持スヘキヤテアル日本カ若シ更ニ危害ヲ加ヘナイナラハ斷然平和ヲ希望スル即チ其ノ心理ハ如何ニシテ中華民國ヲ生存セシムルカタアツテ如何ニシテ日本ニ反抗スルカタハナイ且ツ其ノ目的モ反日ニヨラス平和ニヨリテ達成センコトヲ希望スル故ニ中日關係ニ於テモ能フ限り讓歩シ國際大局ニ對シテモ平和ヲ求ムルコトヲ決心シ爲ニ自國ノ經濟復興ニモ務メテ自力奮闘シ外力ニ頼ルコトニヨリテ生スル各種ノ紛糾ヲ避ケンコトヲ覺悟シテ居ル之レ即チ中國人今日ノ全般的真相ニシテ日本以外ノ世界各國カ共ニ認メ共ニ信スルトコロテアル

吾人ノ意ハ日本ハ絶對的ニ中國人ノ真正ナル心理ヲ了解シテ相提攜シテ東亞ノ平和ヲ固ムヘキモノト思フ、日本ノ要人ニシテ之レカ徹底的了解ヲ願ハス或ハ了解セルモ故意ニ知ラサルカ如クシテ事實上中國ヲ統御セ

ントスル政策ヲ一貫シテ進行シ始メハ反日ノ徹底的取締ヲ圖實トシテ交  
渉ヲ開始シ續イテ中國主權ト相容レサル程ノ大規模ノ要求條件ヲ提出シ  
中國カ許容セハ當然ノ成功トシ許容セサレハ國內輿論ノ總動員ヲ行ヒテ  
中國ハ日本ニ反抗スト稱シ十八番ノ戰爭劇ヲ開演セントスルナラハ  
日本ノ一少部分ノ要人カ如斯計畫セリトスルモ——吾人ハ其ノ必要ナキ  
ヲ勸告スル何トナレハ其ノ希望シ要求スルトコロハ中國人カ融通スヘキ  
最後ノモノニシテ絶對ニ必要ナリト認ムル存幸心理ト相容レヌカラテア  
リ又中國ニハ斷シテ一人タリトモ中國ノ名譽ニ於テ之ヲ承認スル者カナ  
イカラテアル同時ニ極東ノ今日日本ノ實力ハ主動地位ニアリ中國ハ久シ  
ク受動的テアルカラ日本カ其ノ十八番ノ劇ヲ演出セントスルナラハ中國  
ハ唯之ヲ見物スルノミテアル別ニ扮裝前ニ大袈裟ナ身振リヲスル必要ハ  
アナイ

吾人ハ熱烈ニ中日兩民族ノ眞ノ平等互善ヲ望ミ以テ東亞永遠ノ平和ヲ圖  
メンコトヲ希フ共ノテアルカ日本ノ現況下ニ於テハ悲觀セサルヲ得ナイ  
ソレハ現在日本人ノ民族優越感カ甚タシキコトテアル之レハ實ニ難點テ  
アウテ其ノ政治的經濟的ノ問題ハ平等互善ヲ決心シサヘスレハ調和ニ難  
カラヌカ民族優越感ノミハ其ノ反省ヲ望ミ難イ中國モ古代ニ於テハ自大  
自尊テアツタカ歴史上日本ニ對シテハ常ニ文明獨立國トシテ相待シ中國  
民族ノ最強盛時ニ於イテモ日本ニ對シテハ單ニ文化ノ蕙ヲ供給シタルノ  
ミニテ決シテ蔑視シ或ハ危害ヲ加ヘタコトハチイ近代ニ至リ日本ノ維新  
ニハ始終好意ヲ示シ日本カ進歩スル毎ニ之ヲ稱讃シ日清戰役後ト雖仇敵  
視スルコトナク日露戰役ハ特ニ之ヲ欣慕シタルテアル中國ノ對日畏懼ハ  
實ニ二十一個條要求ヨリ始マルコノ中國人ノ心理ハ今モ昔モ變ラナイカ  
日本ハ如何テアラウ？日清日露ノ兩役ヲ經テ世界ノ一等國ニ列スルヤ其

ノ優越感ハ日トトモニ擴大シ九一八ニヨリ中國カ其ノ積弱ヲ暴露シテヨ  
リハ其ノ優越感ハ極點ニ達シタ無論日本ニモ道德アリ深慮アル士カナイ  
テハナイカ如何セン大多數ハ歐米ノ強盛民族ニ對シテハ尙平等ノ友或ハ  
敵ト認メテ居ルカ亞細亞ノ各民族ニ對シテハサウテナイヤウテアル何ト  
ナレハ日本ハ自ラ亞細亞ノ盟主ヲ以テ任シテ居ルカ會テ其ノ黄色人種ニ  
對シ平等ノ提携ヲ爲シタコトカアルカ？朝鮮ヲ合併シテ三十年ヲ經過ス  
ルカ其ノ平等ナル參政ヲ許シタルコトカアルカ？最近年僞國ニ於テ王道ヲ  
高唱スルカ事實上我東北同胞ヲ如何ニ待遇シテ居ルカ？茲ニ言及スルト  
幸日本今日ノ指導精神ニ修正力加ヘラレサル限り中日ノ平等親善ハ根本  
上極メテ困難ナルヲ痛感スル中國人今日ノ一般信念ハ色ノ黃白洋ノ東西  
ヲ問ハス平等提携ヲ理想トシテ居リ況ンヤ同洲同文ノ國家ハ特ニ新クア  
ラネハオラヌト信スル中國民族カ今後奮闘ノ目標トスルトコロハ他國ヨ

リモ優越センコトヲ求メサルトトモニ他國ノ侵略蔑視ヲ受ケサルコトテ  
アル、而シテ中日間ノ事實論ニツイテ謂フナラハ日本今日ノ進歩セル軍  
事化ト工業化トニハ中國ハ斷然追隨スルヲ得ス又追隨シ得タトスルモ日  
本ヲ侵略セウトハ考ヘナイカラ日本ハ永遠ニ中國ノ脅威ヲ感スルコトハ  
ナイ殊ニ中國ノ進歩ハ遲々トシテ日本ノ迅速ナル進歩トハ永遠ニ大差カ  
アル、之レニヨリテ日本カ平等互善主義ヲ探ラス偏ニ其ノ旺盛ナル優越  
感ヲ以テ我國ニ臨ム所以ヲ知ルコトカ出來ルカ殘念ナカラ吾人ニハ日本  
要人ヲ自省セシムル力カナイ、然シ一言中國人ノ立場ヲ表明シテ本文ヲ  
結ハウ、日ク中國人ハ唯タ國家ノ光榮アル獨立ト完整トヲ誓ツテ保持シ  
中華ヲ存續スヘク決心スルカ日本ニ反抗スルコトハナイ、日本要人カ若  
シ存華ヲ反日ト看做スナラハ唯タ其ノ自然ノ成行ニ委スノミ但シ人類ノ  
10 公論ハ必ス其ノ是非ヲ辨別スルテアラウ。

再ヒ中日問題ヲ論ス

中日問題最近ノ進展ニ就イテハ昨日略述シタカ日本側最近ノ誤レル宣傳  
ノ一ニツキ批評ヲ加ヘタイ其レハ所謂經濟援助説テアル

日本公使ノ入京以來日本ノ新聞ハ屢々中國カ日本ノ經濟援助ヲ希望セル  
旨宣傳シテ居ルカ之ハ全然無根ノコトテアル然シ何故ニ斯カル宣傳ヲナ  
スガヲ探究スルコトハ日本政策ノ所在ヲ明瞭ナラシムルコトカ出來ル又  
ヨリ機會ニ中國人ノ意見ヲ宣明スルコトモ必要テアル

第二 中國ハ何國ノ經濟援助ヲモ希望シナイ其ノ理由ハ簡單テアル蓋シ  
庸則論ニヨレハ經濟援助ナル名詞ハ根本上成立シ得ヌ世界ニ國ハ多イニ  
誰カ會テ誰ニ經濟援助ヲシタカ？借款、商品ノ賣リハ要スルニ  
爲テアリ借ス者ハ利益ヲ求ムル爲テアルカラ借ル者ハ恩ニ着ナイ算盤ニ

合ハヌカ利益カ無ケレハ一文タリトモムサムサトハ管サナイノテアル  
若シ然ラサル場合アリトセハ則チ政略的關係ニ出テ資本ヲ投スルコトニ  
ヨリテ特權ヲ獲得シソノ國ヲ亡ホサントスルモノテアツテ何處ニ援助カ  
アラウ中國人今日ノ決心ハ萬事自力ニ頼リ決シテ慈悲ヲ求メヤウトハシ  
ナイ特ニ經濟援助ニ名ヲ請リテ其ノ政治的慾望ヲ遂ケントスルカ如キ外  
國ノ投資ハ絕對ニ反對スル無論中國ハ國際商業ノ發達ヲ望ムカ普通商業  
行爲ハ平等相互利益テアリ之ヲ以テ援助トハ稱シ得ナイ  
第二 中國ノ經濟危機ハ中國自身之ヲ解決シ得決シテ悲觀ノ必要ハナイ  
最近ノ日本側宣傳ニ依レハ中國ハ歐米ノ旁觀ニヨリ日本ノ援助ヲ求メテ  
居ルト謂フ若シコノ觀察カ誠心ニ出タリトスルモノレハ大ナル誤謬テア  
ル、吾人ハ中國經濟カ何故歐目タトイフノガヲ知ラナイ財政ハ困難ナリ  
商業ハ不振ナリト雖根本上何等ノ支障ハナイ財政ニツイテ論センニ收入

カ更ニ減少シ支出カ更ニ増加スルトシテモソレハ軍隊ヲ整理シ機關ヲ縮  
少スレハ足ルノテアリ事實問題トシテソレカ不可能トスレハ官兵ト職員  
ヲ淘汰シ機關ノ合併ヲ行ヘハヨイ輸入超過、銀流出ニヨリ商業ハ衰ヘ市  
場カ萎縮セルハ確ニ事實テアルカ根本ヲ追求スレハ購買力カ減少セハ必  
然的ニ輸入ハ衰退スル世界ニハ決シテ無償テ我國ニ商品ヲ送ル者ハナカ  
ラウカラ買ヒタクモ買ヘス最後ハ輸出入ノ平均トナル中國近年來ノ大患  
ハ濫費ニ統制ナク爲ニ國富日ニ減シ民生日ニ衰ヘルノテアルカ一旦眞ニ  
窮マレハ天然ノ統制ニヨリ中國民族ノ經濟復興ハ反テ成功スルノテアル  
第三中日間ノ政治問題カ現狀ノ體テハ經濟ハ談リ得ナイ、中國ハ將來當  
然幾多ノ新事業カ興リ外國資本或ハ外國人ノ參加ヲ必要トスルカ中日間  
ノ現狀ニ於テハ不可能テアル其ノ理由ハ極メテ明瞭テアル、即チ中國  
ハ何時日本ヨリ危害ヲ加ヘラルルカ知レナイ、東北問題ハ毫モ解決セ

レテ居ナイ人心ハ不安テアリ事實ハ通シナイ現狀テ何ノ經濟事業ヲ云々  
シ得ヤウ今日中日關係ヲ改善シ新ニ友好諒解ヲ得ントスレハ先ツ現在ノ  
政治問題ヲ解決セサルヲ得ス交渉ヲ開始センニハ第一東北問題ヨリ出發  
セネハナラヌ我カ主權ヲ返還シサヘスレハ萬事ハ解決シ今後ノ經濟合作  
モ當然可能トナル前途ハ遠ク大キイ コレハ確ニ日本政治的經濟的最良  
ノ活路テアルカ現在ノ如ク正軌ノ恢復ヲ求メス一方ニハ測リ知レサル脅  
威ヲ以テ臨ミ一方ニハ特別經濟利益ノ需要ヲ暗示シ中國カ援助ヲ希望ス  
ルヤニ宣傳シテモ中國ハ承認シ得ナイノテアル  
要スルニ目前ノ局勢ハ東亞永遠ノ將來ニ關係ス舉ゴト甚大テアル國民政  
府當局ハ近來此ニ鑑ミ日本トノ疏通ヲ極力企圖シテキルノテアルカ日本  
トシテモ慎重考慮スヘキ時タト思フ吾人ハ斷言スル中國政府ノ政策ハ實  
ニ日本ト新ニ平和友好ノ基ヲ築キタイノテアル然シ中國ノ脅威ヲ懼ル程

度方甘シテ第二ノ「滿洲國」トナルヲ辭シナイ程ト誤解セサルコトヲ  
 以  
 中國ハ重大ナル犠牲ヲ免レ且ツ日本ト共ニ東亞ヲ安定センコトヲ  
 スルカ同時ニ志氣アリ知識アル中國人ハ皆中國カ亡フトハ信セス  
 自縛主權ヲ毀損スルカ如キ如何ナル協定ニモ調印シナイ。

電信課長

大臣  
 次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和10.2.21 二九二八 暗 北平 本省 二月廿五日後着 情

廣田外務大臣 若杉參事官

第六一號

本官發支宛電報

第五〇號

續官發天津宛電報第四號ニ關シ

爲念當地朝日支局長ニ就キ取調ヘタル處同人ハ當地ノ支那新聞記者  
 ヲリ近ク蔣、汪カ連名ニテ一ノ聲明ヲ發シ對日方針ヲ明カニスヘシ  
 トノ噂アルコトヲ聞込ミ上海支局ニ右注意方電報シ置キタルカ上海  
 支局ニテハ右ニ基キ情報ヲ蒐集シテ本社ニ發電シタルモノナルヘシ

外務省



特情

電信課長

大臣  
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 會計 秘書官

寫送先

昭和10年2月25日

トノコトナリ  
大臣、天津、南京へ轉電セリ

外務省

日支外交系原稿集  
馬論、形勢論題

昭和10年2月25日 本省 二月廿五日後着 情

廣田外務大臣 有吉公使

特情 上海第二九號

日支兩國親善政策ノ進展ニ伴ヒ支那新聞界ハ連日社説ヲ掲ケテ論評ヲ加ヘテ居ルカ支那ニ於ケル最大ノ英字紙トシテ英國系資本ヲ代辯スル「ノース、チャイナ、デーリー、ニユース」紙ハ二十五日ノ紙上ニ「平和政策」ト題スル社説ヲ掲ケ左ノ如ク論シテ居ル  
行政院長汪精衛氏ノ演説ハ日支兩國ノ親善關係發展ニ重大ナ一時期ヲ劃シタ、汪院長ノ聲明ハ支那國內情勢ノ實際的要求ニ合致スル、西方ニ於テハ共匪ヲ討伐シ西南派トノ間ニ満足ナ諒解ヲ確保シ黃郛氏ノ纖弱ナ統制ノ下ニ北支那ト滿洲ニ於ケル傀儡政權トノ實質的接

外務省

觸ヲ巧ニ保持シテ行クニハ南京政府ハ外部ノ障礙一切カラ解放サレ  
ネハナラヌ、若シ廣田外相ノ議會演說ニ表明サレタ如ク日本政府カ  
支那トノ協調ヲ要望スルナラハ南京政府モ右要望ニ呼應裏書セネハ  
ナラヌ、行政院長汪精衛氏カ今回ノ聲明ニ於テ「平和ト相互援助ノ  
原則」ヲ外交政策ノ基調トシテ援用シテ居ルノハ恐ラク以上ノ廣田  
外相ノ演說ニ示唆ヲ得タモノテアラウ、日支兩國間ニ於ケル商議ノ  
結果ハ寔ニ満足スヘキモノテアリ特ニ極東ノ政局ニ安定ノ要素ヲ導  
入スルモノトシテ衷心歡迎サレネハナラヌ、日本政府ハ從來ノ成行  
ニ徴シ最近ニ於ケル政策ノ轉向カ果シテ熱狂的歡迎ヲ受ケ得ルカ必  
スシモ確信カアルマイ然シ支那ニ對シ「スマツツ」將軍ノ所謂「友  
好的ナ援助ノ手」ヲ與ヘヤウトスル努力ハ充分認メラレルコトハ疑

外 務 省

無イ  
其ノ他國際政局上ノ諸問題ニ付イテハ見解ヲ異ニシテモ今ヤ世界ノ  
各國ハ大童テ自國ノ國民的福祉ニ纏ル諸困難解決ニ努メテ居ル、日  
本政府ノ態度ニ一層注意スル實狀ニ在リ、從ツテ支那ニ對スル日本  
政府ノ態度ニ付イテハ深ク多トスル所カララウ、然シ乍ラ苟モ斯ル  
討議ニ際シテハ支那ノ權益ヲ眞ニ顧念スルコトカ前提條件テアル、  
斯ル念慮コソ極東問題一切ノ解決ニ對スル根本原則テアル若シ日本  
政府カ以上ノ諸原則ヲ基調トシテ支那トノ接觸ニ努メルナラハ日本  
政府ノ政策カ他國ノ批判ヲ受ケル理由ハナイ、東京南京兩政府間今  
同ノ提携工作ニ於テ最モ強力ナ紐帶トナルモノハ上述ノ根本義テア  
ル、日支兩國關係ノ新調整カ支那ノ全局ニ對シ攪亂的影響ヲ與ヘル

外 務 省

カ否カハ將來ノ決定ニ俟タネハナラヌカ極東ノ運命ニ關係アル他ノ諸國カ思慮ト諒解トヲ以テ對處スルナラハ日支兩國關係ノ調整カ攪亂的影響ヲ及ホス理由ハ無イ、例ヘハ英國政府ノ如キ此ノ大國ニ關聯シ判ツキリシタ獨自ノ政策ヲ持テ居リ支那ニ於ケル英國ノ物質的・道義的權益ハ多年ノ風雲ニモ耐エタ長イ友好關係ノ記錄ニ他ナラヌ一方英國政府ハ日本ノ強健ナ友好關係要望ニ終始一貫忠實テアリ米國トノ間ニ盟邦關係ヲ確保スル特別ノ理由ヲ持ツテ居ル、更ニ又國際聯盟ノ一員トシテ英國政府ハ堅固ナ連鎖ト基礎トヲ維持、終局ニ於テ此ノ如キ基礎ノ上ニ世界平和ノ強力ナ要塞ヲ建設スルコトヲ希望シテ居ル、英國政府ハ列國ニ率先支那ノ開發ニ付日本ノ經濟的寄與カ如何ニ重要カラ承認スルテアラウ、英國政府ハ從來ノ諸公約ト

外務省

ノ關係上政治的協力ニ應シ得ヌカモ知レヌカ必スシモ商業上ノ協力一般ヲ阻止スルモノテハナイ、然シ乍ラ日本政府ノミナラハ他ノ諸國政府モ亦警戒セネハナラヌ一危險カ存スル、今ヤ各國政府間ニハ目前ノ苦難カラ脱出スル爲メ原則ヲ何等價值カナイト拋棄シテ了ラ自棄的徵候サヘ見ラレル、然シ乍ラ終局ニ於テ國家モ個人ト同様道義上ノ制裁ニ依存セネハナラヌ、此ノ重要原則ヲ閑却シタコトコソ現代文明ヲ惱マス諸問題大半ノ解決カ遲延セラレ舊來ノ陋習ト無價値ナ便宜手段トカ今尙多數國家ニ於テ看過容認サレテ居ル主ナ理由テアル、「現實」ノ福音ヲ猛烈ニ宣傳シ「ネヴィル、チヰムバーン」氏ノ如キ現實主義者カ聯盟ヲ國際聯盟確保ノ唯一ノ有效ナ機構トシテ支持シタ際闡明シタ如キ諸考慮ヲ排撃スルノハ寔ニ結構タ然

外務省

シ國際信義ノ諸原則ヲ眞向カラ排撃シテ自國ノ苦難ノ直接救濟策ヲ講シタ諸國政府モ亦自國ノ國策ニ付何等カノ動義的正當化ヲ圖ツタコトハ否定出來ヌ事實タ、コレ道義カ依然人事ニ於ケル恒久的眞理タトノ基本的事實ヲ確認スルニ他ナラヌ、斯ル根本原則ヲ無視スル國ハ自ラ墓穴ヲ掘ルモノテアル

250

外務省

特情

電信課長

大臣  
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和10年2月21日

二九五四 平

本省 二月廿五日後着

情

廣田外務大臣

有吉公使

特情 上海第三〇號

當地ノ米國系新聞「イヴニング・ポスト」紙ハ廿五日ノ紙上ニ於テ「超協調」ト題シ左ノ如ク論シタ

日支關係ハ最近非常ニ好轉シタカ東京朝日、時事、國民等ノ記事ニ依レハ幾分ハマタ支那ノ好轉ニ全幅ノ信用ヲ措カス好轉ノ證明カナケレハ從來通り強硬ナル態度ヲ持スヘシト云ツテ居ル土肥原少將モ南京ヨリ歸來シテ後ハ幾分非樂觀的ニナツタヤウテアル然シ時事、國民ニ依レハ海軍ト實業界テハ日支關係ノ好轉ニ對シ陸軍ヨリモ「リベラル」ナ意見ヲ持ツテ居リ南京側カ提案シテ居ル蔣介石氏ト百武

251

外務省

司令長官ノ會商ニ同意シ中央軍ノ日清汽船ニ依ル四川輸送等ニモ積極の後援ヲ爲ス意嚮ナルモノノ如クテアル云々

252

外務省

電信課長

大臣  
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和10 二九六六略

香港 本省

廿六日後發 二月廿六日後着

亞、情

廣田外務大臣

(番號宛先等問合せ中)

水澤總領事

一、胡漢民機關紙中興報ハ二十三日ヨリ引續キ本日尙未完ノ長文論說ニ於テ汪ノ演說ハ(一)其ノ從來ノ主張タル抵抗到底、長期抵抗、一面抵抗、一面交渉等ノ對日方針カ錯誤モ甚シカリシコトヲ自認シ(二)日本ノ援助ナカリセハ國民黨モ中華民國モ其ノ今日ナカリシヲ認メタルモノニシテ其ノ對日屈服ハ自己ヲ欺キ國民ヲ欺キ故總理ヲ欺瞞侮辱シ及國ヲ賣ルモノナリトシ筆ヲ極メテ汪ヲ攻撃罵倒シ居レリ  
三、其ノ他各紙中汪、蔣系ハ沈黙ヲ守リ論評ヲ加ヘタルモノノ多クハ

253

外務省



第二課長  
第三課長

情報部

普通第九一號

昭和十年二月二十六日

第一課長

外務大臣 廣田 弘毅 殿

日本ノ對支政策ニ對スル漢字紙論評報告ノ件

二月二十三日當地漢字新聞濟川公報ハ「日本果シテ覺醒セリヤ」ト  
題シ大要左ノ如キ論評ヲ掲載セリ

客月二十三日廣田外相カ對支外交方針ヲ發表シテ以來中日外交好轉

記

在重慶

領事 中野 高



日支外交ニ係リ

昭和拾年參月拾壹日接受

255

中立系ニシテ是等ハ大体ニ於テ日本カ滿洲ノ主權ヲ還シ其ノ誠意ヲ  
披瀝セサル限リ百ノ勸誘手段モ只變裝セル侵略手段ノミ（華僑日報）  
日本カ過去ノ侵略行動ヲ清算セスシテ排日取締ヲ要求シ親善ヲ叫フ  
ハ我ヲ狙上ニ置キテ握手ヲ求ムルニ似タリ（循環日報）等論シ居レ  
大臣、南京へ轉電シ庸東へ暗送セリ

外務省

254

セリトノ聲浪日本ヨリ頻々トシテ傳ヘラレ來リ所謂中日經濟提携或ハ中日共存共榮ハ日軍ノ軍政界要人又ハ機關的新聞ノ大ニ宣傳スル所トナリ恰モ武力萬能ヲ迷信シ居ル國家カ業ニ覺醒セルカノ觀アル處右果シテ事實ナラハ中日兩國否全世界平和ノ爲誠ニ慶賀ニ堪サル所ナルモ吾人ハ更ニ一步ヲ進メテ日本ノ企圖スル所ヲ考察スルノ要アルヘシ

日本ハ明治維新以來内部的建設ニ専心セル結果國力充實シ其國際的地位モ亦日ト共ニ向上セルカ固ヨリ日本ハ此ノ程度ニテ満足スルモノニ非ス今後日本ノ進ムヘキ道ハ國內ノ公道（睦形的發達ヲ遂ケタル資本主義ノ抑制及失業問題ノ解決等）ヲ増進スルト共ニ他面國際合作ヲ爲シ國際主義及至大同主義ノ達成ヲ期スルニ在リ然ルニ一部武人ハ狹義ノ愛國心ニ因ハレ外ニ對シテハ只管侵略及至征服ヲ敢行シ内ニ在リテハ法律ヲ無視シテ政府ノ操縦ヲ爲ス等恐怖狀態ノ造成ヲ能事ト爲シ竟ニ日本全國ヲシテ邪道ニ陥ラシメタルカ曩ニ我東北占領後各國ノ非難ヲ蒙リ其外交的地位ハ孤立ニ陥リ恰モ大戰前ニ於

在重慶日本領事館

256

クル獨逸ノ如キ地位ニ置カレタルヲ以テ此ノ緊張セル形勢緩和ノ爲所謂中日經濟提携或ハ中日共存共榮ヲ高倡セルモノトモ思考シ得ヘク從テ日本ノ企圖スル所ハ此種主張ニ依リ世界ノ耳目ヲ掩飾シツ、他面中國ヲシテ國際聯盟トノ連絡ヲ斷念シ日本ニ投降セシメントスル一舉兩得ノ策タルヘシ會テ大阪毎日ハ日本ノ對支政策ヲ論シ「極東問題ハ第三者ノ容喙ヲ許サス」ト主張セルカ之明カニ日本ノ陰謀ヲ表示セルモノニシテ最近日本當局者ノ主張スルカ如ク日本ニシテ果シテ覺醒セルモノナラハ東北ノ無條件返還ヲ先ニスヘキナリ云

宜昌

在重慶日本領事館

257

特  
電信課長

大臣  
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和10 3. 三〇八五 平 本省 二月廿七日後着

廣田外務大臣

特情 上海第三一號

大晩報ハ二十二日ノ紙上ニ中日親善ノ前途ト題スル社説ヲ掲ケ次ノ如ク述ベテ居ル

日本ノ片面的交渉ニヨツテ起ツタ日支兩國親善ノ空氣ハ國民政府當局反響ヲ惹起シ汪精衛行政院長モ日本ニ對スル態度ヲ闡明スル所アリ又王寵惠氏モ國民政府當局ノ所懷ヲ日本政府當局ニ傳ヘテ居ル日本外交家ハ日支兩國ノ親善ガ排日運動ノ取締ヨリ始マルトイフモ夫ハ實ニ原因ト結果トヲ顛倒シタモノデアル、況ンヤ近來排日團體ハ消滅シ排日言論モ跡ヲ絶チ事實上排日運動ハ存在シナイ今日日本

外務省

258

特  
電信課長

大臣  
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和10 3. 三〇八六 平 本省 二月廿七日後着

廣田外務大臣

特情 上海第三二號

日支兩國間ノ提携ニ付英米兩國政府カ介入スル虞アリ日本外務省カ懸念ヲ示シテ居ルトノ路透電報ニ付「ノース、チャイナ、デール」ニユース」紙ハ廿七日ノ紙上ニ社説ヲ掲ケ次ノ如ク論シテ居ル日本外務省今回ノ聲明ハ慎重考慮ノ上テ發表サレタモノニ違ヒナイ右聲明ハ相關聯スル諸事實ヲ並ヘ立テタ上テ日本政府ノ政策ノ動向ヲ闡明シタモノテアルカ其ノ結果ハ餘リ香ハシクアルマイ、今回ノ報道カ如何ナル性質ノモノカ判明セス、如何ニモ奇異ニ聞エルカ所謂外務省「代辯者」カ最近ノ諸事實ニ付奇異ナ解釋ヲ下シテ所信ヲ

外務省

259



寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文情 調查 人事 文書 會計 秘書官

大臣 次官

電信課長

昭和10 2.28 三〇〇六 略

上海 本省

廿七日前發 二月廿七日前着

情

廣田外務大臣

第一八四號

有吉公使

二十六日東京發電通ハ「外務省ニテ二十五日非公式ニ聲明シタル見解」トシテ英米ハ日支親善ヲ嫉視シ日支不親善、平和攪亂カ其ノ眞ニ希望スル處ニシテ其ノ東亞政策ハ茲ニ馬脚ヲ暴露シタルモノト報シ路透社モ東京ニ於ケル有力通信社ノ報道ニ基ク趣ヲ以テ右ト同趣旨ノ通信ヲ配布シタリ  
北平、南京、廣東、香港へ轉電セリ

外務省

261

政府當局ノ要求ハ寔ニ解シ難イ所ダ  
抑々排日ハ心中ノ反感デアリ排日運動ハ其ノ表現デアル斯ル運動ヲ抑制スレハ反ツテ反動的ニ強クナルデアラウ領土ヲ喪失シ國權ヲ凌辱セラレテ如何ニシテ親善關係ノ圓滿ナル成果ヲ望ミ得ヨウ經濟援助、商業提携等言葉ハ寔ニヨロシイガ國民ノ感情ガ依然齟齬シテキル時如何ニシテ斯ル援助ヲ受ケ得ヨウ、中日兩國ノ親善ニハ排日運動ノ原因ヲ除棄スルコトカ先決問題デアル

外務省

260

言明シタ以上右言質ニ何等ノ修正モ加ヘス放任スルコトハ許サレナイ、英米兩國政府カ日支兩國ノ接近ニ邪慮立テスルダラウト思ハセ  
ル様ナ意見カ倫敦テモ華府テモ出タコトハナイ更ニ外務省代辯者ハ  
日本政府ノ聯盟脱退ニ付巧妙ナ説明ヲ加ヘ理由ヲ述ヘタカ公文書カ  
手ニ入ルノタカラ彼此對照セネハナラヌ

外務省

262

大臣 次官

電信課長  
東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 文人 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和10.3.30 四一 暗

南京 本省

廿七日後發 二月廿七日後着

亞、情

廣田外務大臣

須磨總領事

第一九七號

廿四日「アーベンド」廿六日「モーリス」(北上ノ途上)及「ジヨ  
ンソン」交々本官ヲ來訪最近支那側ハ日支間ニ何等カ出來上リタル  
ニ努メテ見セ懸ケ居ル模様ナル處真相如何ト頻リニ懸念シ居タル  
ニ付公使發閣下(宛電報)第一四六號ト同様ノ趣旨ヲ以テ宣傳的情  
報ニ惑ハサレサル様注意シ置キタリ公使發閣下宛電報第一八四號ノ  
次第モアリ御參考迄  
支、北平へ轉電セリ

外務省

263

電信課長

大臣  
次官

東亞  
歐亞  
米洲  
通商  
條約  
情報  
文化  
調查  
人事  
文書  
會計  
秘書官

昭和10 三〇四四 28略

廣田外務大臣

第三二號

本官發支宛電報

第八號

貴會第一三四號ニ關シ

廿五日ノ當地宏道日報（陳濟棠系）社説左ノ通

經濟合作、技術合作ハ孰レモ曾テ我國ヨリ聯盟ニ希望セル問題ナリ  
日本ハ東方ノ驕兒ニシテ又我國ト最近接セル國家ナルヲ以テ對支侵  
略ヲコトトセサレハ合作ノ機會多ク其ノ意義モ亦甚タ良キ譯合ナリ

廣東 廿七日後發  
本省 二月廿七日後着

河相總領事

情、亞

日支外交実況雜算

寫送先

外務省

265

264

經濟、技術合作ハ中國ニ取り實ニ焦眉ノ急務ナルモ之ヲ口實トシテ  
恣ニ侵略ヲ企圖セラルルニ於テハ寧ロ合作セサルニ如カス汪兆銘ハ  
日支親善力東亞和平ニ貢獻セル所以ヲ力説セルモ日本側ノ所謂日支  
提携ニハ東亞「モンロー」主義ヲ採ルヘシトノ言ハ中國ト聯盟トノ  
合作機會ヲ阻害セント欲スルモノト思考ス中國トシテハ各國ノ長ヲ  
採リ其ノ短ヲ補フヘク敢テ日本一國ノミト合作スル能ハサルナリ而  
シテ歐米各國ニ對シ「モンロー」主義ヲ採ラント欲セハ日本ニ誠意  
アリヤ否ヤカ先決問題ニシテ吾人ハ過去ニ於テ既ニ幾度カ日本ノ欺  
瞞ヲ受ケタルニ鑑ミ亞細亞「モンロー」主義ヲ實行シ日支間ノ經濟  
技術合作ヲ成立セシムルコトニ對シ未タ滿幅ノ信頼ヲ措ク能ハサル  
ハ無理カラヌ次第ナリ更ニ一步ヲ讓ルモ日本ノ企圖スル所ハ中國ト

外務省

聯盟トノ合作ヲ欲セス態好キ合作提議ニ依リ我カ對外發展ヲ阻止ス  
 ルモノト謂フヘシ日本ハ他人トノ合作ヲ阻止シ自ラ提携ヲ謀ル其ノ  
 我レヲ利スルヤ未タ思半ハニ過ク吾人ハ義ニ懲リテ膾ヲ吹クノ心理  
 ヲ以テ政府當局ニ對シ熟慮善處方ヲ希望セサル能ハス  
 大臣へ轉電セリ

外務省

266

情報部

第一課長

公第一五〇號

昭和十年二月二十七日

在中華民國

特命全權公使 有吉



別紙添附

267

支外交手係  
 東倫並新南滿  
 日  
 記録  
 日

汪行政院長ノ對日關係聲明ニ對スル反響ニ關スル件  
 本件ニ關スル本年二月二十二日大晚報論說ハ不取敢概要電報濟ミナ  
 ルモ何等御參考迄ニ右全文（別紙甲號）及要譯（別紙乙號）送付スル  
 ニ付御査閱相成度

在中華民國上海日本公使館

分類 444.9-5

### 中日親善的前途

中日親善的空氣由日本片面的放送進而引起我國當局的響應。前日汪院長在中政會既再度闡明我當局對日的態度，而王寵惠博士於赴任過日之便，更在東京以私人資格表示中國當局之懷抱。王氏對日記者發表談片說明我方對中日提攜的原則，「須兩國立於平等地位，彼此相輔而行。」因此，「與其為經濟的提攜，不若先將兩三年來變則狀態下之中日國交關係，復歸常態，若具體言之第一，兩國國民之諒解認識，須相互益深，第二，數年來脫離軌道之中日外交，不可不使之復歸於常軌之外交關係。」王氏復解釋我國的排日運動道：「有能除去其原因，余信亦必自然消滅。」

王氏之言，提出「平等」為原則，恢復「國民感情」和「外交常軌」為先決條件，是誠任何親善行為不可缺的原素，是常識也是至理。然而日本外交家，却始終不願作這樣的剖析，口口聲聲斥排日運動為中日親善的障礙，認為中日親善必自取締排日運動始。這就犯了倒因為果，絕大的錯誤。

要知「排日」是一種反感，「排日運動」是反感衝動後表現出來的動作。取締排日運動的結果，祇能暫時抑制其動作的表現，絕對不能根本消滅其反感的形成。況且抑制越甚，反動越力，無形中或且加強其反感的爆發。先就排日運動說，自從塘沽協定簽訂而後，排日團體一個個烟消雲散了，排日輿論也早就金人緘口了。遠的不講，即就察東事件說，我們又何嘗聽見任何中國人發表過對日反感的憤慨之辭？所以事實上說，排日運動早已不存在的了。然而日本外交當局何以尚斤斤以取締排日運動為前提呢？拆穿了講，他們感到表面上的「運動」雖隱，事實上的反感未除，其不安者在此，中日親善的絕大障礙也在此。

政府的力量可以阻止民眾動作的表現，決無力干預到民眾內心的動態，這是任何人應該明白的。怨恨是內心理態的一種，其形成

## 大晚報

昭和十年  
二月廿二日

與消滅一任著觀感反映積累為消長的消釋，怨恨的惟一辦法，祇有撤除形成怨恨的事件，逐漸減削其觀感反映的積累，才可以引入淡忘的境界。這樣才可以談盡釋前嫌，才可以談親善提攜。

形成中國民眾怨恨日本的心理的事件，不待我們一一的指出，日本當局者比任何人多清楚。敢問於對方領土喪失國權凌辱之後，即期其至誠來作親善之談，又怎樣能使對方不生戒懼之心，又怎樣能希望這種親善運動有圓滿的結果，經濟援助，商業提攜，這一些甜言蜜語，未嘗不娓娓動聽，可是在國民感情未曾恢復，外交常軌未見實現之前，又怎樣能使對方接受這種誠意的貢獻呢？解鈴繫鈴，本全靠主動者一方面的覺悟，中日親善的命運，操縱在日本當局的手裏！

(乙號)

日支親善ノ前途

昭和十年二月二十二日大晚報

日支親善ノ空氣ハ日本ノ片面的放送ニヨリ始テ我國當局ノ反響ヲ引起シ一昨日汪院長モ對日態度ヲ闡明スル處アリ又渡日中ノ王寵惠博士モ個人ノ資格ヲ以テ我國當局ノ素懷ヲ表示シツツアリ兩國ノ親善ハ王博士ノ言ヘル如ク平等ヲ原則トシ國民ノ諒解認識ヲ深メ外交ヲ常軌ニ復セシムルコトヲ先決條件トナスコト絶對ニ必要ナリ又排日運動ハ其ノ原因ヲ除去セハ自然ニ消滅スヘキモノナルコト亦誠ニ王博士ノ言ノ如シ而モ日本外交家カ日支親善ハ排日運動ノ取締ヨリ始ルト言フハ實ニ原因ト結果ヲ顛倒シタルモノナリ

在中華民國上海日本公使館

抑排日ハ一種ノ反感ニシテ排日運動ハ其ノ表現ナリ從テ排日運動取締ハ其ノ表現ヲ暫シ抑壓スルノミニシテ根本的ニ其ノ反感ヲ消滅スルヲ得ス却テ之ヲ抑壓スレハ反動的ニ強クナルモノナリ而モ塘沽協定以來排日團體消滅シ排日言論モ跡ヲ絶チ事實上排日運動ハ存在セサルニ日本ハ何故ニ其ノ取締ヲ要求スルヤ明カニ言ヘハ表面上ノ運動ハ影ヲ潛メ居ルモ事實上ノ反感ハ尙存スルコトコソ日支親善ノ絶大ナル障碍トナルナリ又政府ノ力ヲ以テスレハ民衆ノ行動ハ阻止スルヲ得レト民衆ノ内心ノ動キニハ干預スル力無シ即チ内心ノ怨恨ヲ除去スルコト必要ナリ而シテ日本ヲ怨嗟スル原因トナル事件ハ枚擧ニ遑無ク領土ヲ喪失シ國權ヲ凌辱セラレ如何ニシテ親善運動ノ圓滿ナル成果ヲ望ミ得ン經濟援助、商業提携ノ語誠ニ宜シキモ國民ノ感

在中華民國上海日本公使館

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 文人 會計 會社 秘書官

大臣 次官

電信課長

1. 1. 1. 0. 9. 8

昭和10 三一六〇 3.2 平  
 兵庫縣別府 本 省  
 二月廿八日後發  
 三月一日前着  
 亞

廣田外務大臣  
 發信人名ナシ

平和工作機宜ニ適ス日支ノ諒解アル曙光ヲ見ルハ國家百年ノ大計ナ  
 リ感謝ニ堪ヘヌ

外務省

272

情未タ恢復セサルニ如何ニシテ斯ル援助ヲ受ケ得ンヤ鈴ヲ解ク者又  
 鈴ヲ繫クモノタルヘシ日支親善ノ運命ハ全ク日本當局ノ手ニアリ

在中華民國上海日本公使館

271